

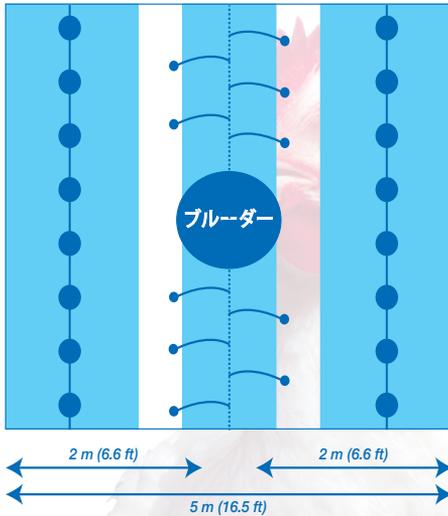
なぜチックガードを設置するのか？

- 育雛期とは、ヒナの一生の最初の7日から10日間のことで、その期間中の目的は、ヒナの食欲の発達と採食行動のために最も適切なコンディションを提供することです。
- 適正な育雛域を作ることによって、将来、高いレベルで鶏群成績と斉一性、ウェルフェアを達成するための助けとなるでしょう。



チックガードの設置

01



- 80% 敷紙
- 自動給餌機パン
- ニップルライン
- 補助ドリンカー

チックガードの設置手順

床の上に、敷料を最低でも5cmの深さで均等に拡げた、クリーンで消毒・乾燥済みの衛生的な鶏舎から始めましょう。

器具備品

1. 育雛域を囲う為に十分な、高さ約50cmプラスチック、段ボールまたは木製板のフェンス。
2. 各育雛域の中央に設置することのできるブルーダーまたはラジエントヒーター。
3. 育雛域に敷く餌付用敷紙またはそれに代わるもの。
4. 補助ドリンカー。
5. ラウンドドリンカー。
6. 温度計。
7. 相対湿度(RH)を測定するための湿度計。
8. 照度計。

手順

01

- ステップ1** 育雛域の適正な面積を算出する必要があります。餌付時には、収容密度を40羽/m²までにします。育雛域の広さは、熱源によっても変わるでしょう。
- ステップ2** 自動給餌・給水システムは床まで降ろし、育雛域全体に配置しなければなりません。自動給餌・給水システムが倒れないように固定し、ヒナが逃げないように、計算した育雛域を囲むようにチックガードを設置します。
- ステップ3** 育雛域全体が均等な明るさになるように、光源の位置を調整します。照度計を用いて、育雛域の床の高さで80-100ルクス（7-9フットキャンドル）になるようにします。
- ステップ4** 育雛域の中央にブルーダーまたはラジエントヒーターを設置します。床からの高さは、メーカーの推奨に従います。
- ステップ5** 育雛域内に器材を設置します。
- 育雛域を餌付用敷紙で覆います。熱源直下の区域（総育雛域の約10%）は紙を敷かない様におきます。
 - 敷紙の上に、次のように残りの器材を設置します。
 - ヒナ125羽当たりラウンドドリンカー1個。
 - ヒナ100羽当たり補助ドリンカー1個。
 - 育雛域内に補助給餌トレー（ヒナ100羽当たり1枚）も置くのが理想的です。
- ステップ6** 育雛域の端に、ヒナの高さで温度計と湿度計を置きます。
- ステップ7** 予備加温によって育雛域が約21℃になるように、ヒナ到着の48～72時間ほど前（舍外温度/時期によって）に、ブルーダーに点火する必要があります。
- ステップ8** ヒナ到着の24時間前に、餌付時にブルーダーの端が32℃、ヒナのいるところが30℃になるように、育雛域の温度を上げます。理想的な相対湿度は60～70%です。
- ステップ9** ヒナ到着の直前（1-2時間前）に、少なくとも育雛域の80%を敷紙でカバーし、篩にかけた良質なクランブルまたは粗目マッシュのスターター飼料を薄く撒き、すべての給餌トレーに飼料を入れます。自動給餌機を動かし、すべてのパンまたはチェーンフィーダーに飼料が充分に入っていることを確認します。

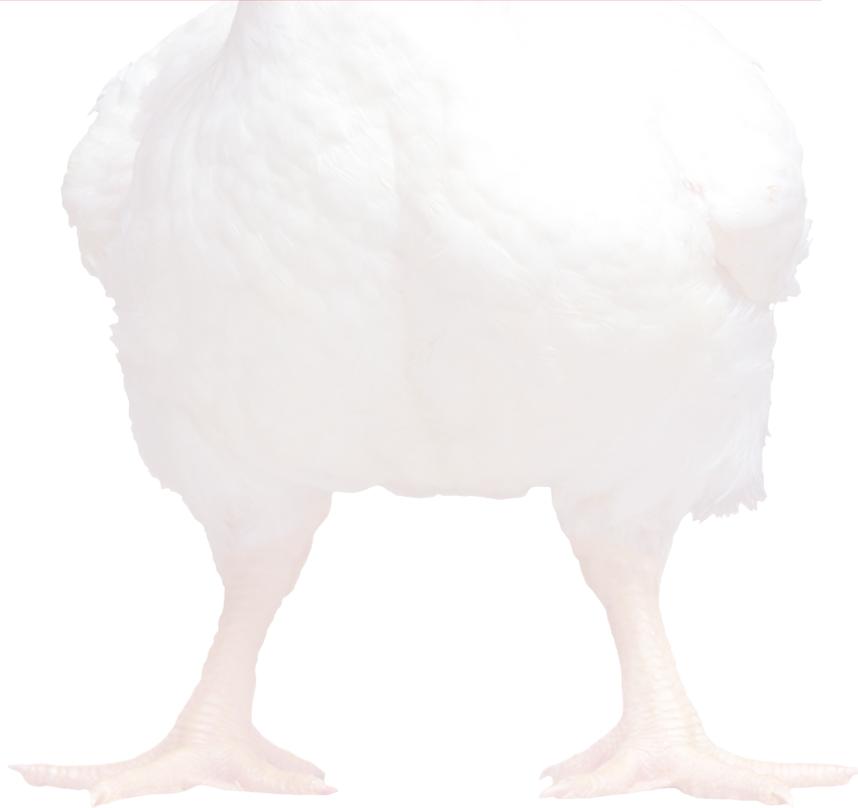


ステップ 10 適切な温度（18.0-21.0℃）の、清潔で新鮮な水を補助ドリンカーとラウンドドリンカーに満たします。自動給水機の場合は、確実にクリーンにするためにフラッシングをして、新鮮な水を満たします。

ステップ 11 ヒナが育雛域全体に確実に広がるように、優しくヒナを放します。

ステップ 12 モニターと記録

- ヒナのいるところの温度をチェックして記録－必要に応じて調整。
- 鶏舎内の相対湿度をチェックして記録－必要に応じて調整。
- 照度と照明の均一性チェックして記録－必要に応じて調整。



検証方法

ヒナの行動をモニター

ヒナ：

- 均等に拡がっている
- 採食中のヒナがいる
- 飲水中のヒナがいる
- 休んでいるヒナがいる



ヒナは快適

アクションは必要なし

ヒナ：

- 群がっている
- 騒がしい



ヒナは寒がっている

アクションが必要

温度と湿度、またはどちらかをチェックして調整。

ヒナ：

- チックガードの端まで拡がっている
- 静か



ヒナは暑がっている

アクションが必要

温度と湿度、またはどちらかをチェックして調整。

検証方法

育雛場所の設定が適正かどうかを確認するためには、次のことを調べます。

- クロップフィル：ヒナが必要なクロップフィルレベルに達しているかどうか（すなわち、各日齢の目標レベルより5%以上低いかどうか。）
※ ブロイラーHow To. . . 「ブロイラーのクロップフィル調査」参照
- 肛門体温－推奨温度（39.4-40.5℃）よりも低いか高いか。
※ 孵化場How To. . . 「ヒナの快適さチェック」参照
- 斃死率：予測より低いかどうか。
- 7日齢体重：初生ヒナ体重の4倍以上になっているかどうか。

目標に届かない場合に検討すべき分野

環境

- ヒナ到着前に、鶏舎が予め加温されていることを確認。
- モニターしてヒナが快適であることを確認し、必要なら次を調整。
 - ヒナの高さでの温度。
 - 敷料の温度。
 - 相対湿度。
- 育雛域の照度が最適なレベルであることを確認。
- 幼雛にとって換気量が適正であることを確認。

エサと水

- ヒナが遮られることなく、水とエサに寄りつけることを確認。
- 少なくとも育雛域の80%をカバーする敷紙の上に、エサが均等に撒かれていることを確認。
- 与えるエサは、少量ずつ何回も紙の上に補充。
- 補助ドリンカーが使われていることを確認。

